

学力向上に向けた取組

学力向上対策委員会

1 学力分析から見てきた実態（NRTテスト、県小研学習指導改善調査より）

全国、県と比較すると、学年や教科にもよるがおおむね平均を満たしている。

NRTテストの全体の結果をみると、国語・算数とも、全領域において全国の正答率を上回っている。（偏差値 国語：51.9 算数：52.1）

学習指導改善調査では、設問によっては大きく県平均を下回るものがある。

・国語 「資料の選択・分析」

複数ある資料の中から自分の主張に必要なものを選べない。

「段落を構成する」

始め（考えや立場）・中（根拠）・終わり（まとめ）の3部構成で文章を書くことができない。

・算数 「解き方を説明する」

立式して答えは導き出せるが、キーワードを落とさずに順序よく説明することができない。

「数や量の感覚」

計算や公式の適用はできるが、数や量の感覚が身に付いていない。



関連付けて考えることが苦手な加茂小の子どもたち

（自分の考えと資料、段落と段落、文章と資料、主張と体験、図と式、式と言葉、操作と言葉、友達の考えと自分の考え・・・）



一人一人が自分の考えをもつ過程の重視

2 方策



自分の考えをもつための「一人学習」の型を探る。

（1）今後の授業研では

授業を公開する教科の中で、一人学習の場面や型についてよく考えて提案していただきたい。年度末に成果をとりまとめ、学年や教科に合った型をいくつか示すことができると考えている。

（2）日々の授業で気をつけること

算数的活動をさらに取り入れる。

辞書を活用する機会を増やす。

理科や社会で、資料の見方、読み取り方、（書き方）を丁寧に指導する。

調べたことから、必要な情報だけを選んだり不要なものは取り除いたりできるようにする。

得た情報は、自分の言葉に置き換えて活用できるようにする。

言語事項の指導を教科を問わず行う。（接続語、指示語、主述の関係）

段落構成を意識した文章を書いたり話したりする経験を積ませる。

（3）具体的な指導の手立て

どの子も教科書の教材文をすらすら読めるようにする。

大事なところに線を引ながら読む習慣をつけさせる。（国語に限らず、自分で見つけて）

発言や記述において、接続語を使いながら意見と根拠を順序よく述べる指導を継続する。

「私は・・・だと思えます。理由は・・・だからです。」

「まず、・・・。次に、・・・。そして、・・・。だから、・・・となります。」